

規制改革推進会議 医療・介護WG

支払基金次期コンピュータシステムの検討状況

平成30年 2月13日

1. 背景・目的

社会保険診療報酬支払基金の改革を進めるにあたっては、「データヘルス時代の質の高い医療の実現に向けた有識者検討会」報告書の中で、審査業務の効率化・審査基準の統一化に関する事項として、「コストパフォーマンスが高く最適なアーキテクチャ(設計思想)による業務・システムの実現」、「審査プロセスの見直し・効率化」及び「審査業務における情報支援」といった3つの改革の方向性が提示され、早期に具現化するように求められている。

また、規制改革実施計画（平成29年6月9日閣議決定）においては、上記の改革の方向性に加えて、「機能ごとに分解可能なコンピュータシステムの構築」とすべきと示された。

具体的には、「レセプトの受付」、「受け付けたレセプトの適切な審査プロセスへの振分け」、「審査結果の受付」、「それに基づく支払」等の機能単位にコンピュータシステムがモジュール化されていることを求められている。

これを受け、今回、「支払基金業務効率化・高度化計画」においては、平成32年度に予定している次期システムの構築と併せ、審査業務の効率化として、「コンピュータチェックに適したレセプト様式の見直し等」、「コンピュータチェックルールの公開」、「返戻査定理由の明確化」、「請求前の段階でレセプトエラーを修正する仕組みの導入」、支部間差異の解消として「既存のコンピュータチェックルールの見直し」、「統一的なコンピュータチェックルールの設定」、「審査基準の統一化」、「自動的なレポート機能の導入」等の具現化に向けて検討を進めているところである。

2. 次期新システムについて（次期システムが目指すこと）

- 新システムは、規制改革実施計画に基づき、受付・審査・支払のそれぞれの業務単位でのモジュール化や、支部業務サーバの本部への一元化を基本とし、稼働後も業務内容の変化に応じて、エビデンスに依拠した追加的な対応を柔軟に行うことができる、スケーラブルなシステムとする。
- 今後は医療機関等の請求段階から統一したコンピュータチェックを中心に据え、それに対応しきれないレセプトについては職員による対応とし、残る重点審査分に限って審査委員の医学的知見を基に対応することとする。すなわち、受付、審査、支払という業務プロセスの全工程を徹底的に見直し、コンピュータ処理可能な業務については、すべてコンピュータ処理に置き換えることとする。
- 審査支払システムの刷新を行い、ICTやAI等を活用することによりシステム刷新後2年以内にはレセプト全体の9割程度をコンピュータチェックで完結することを目指す。また、職員のチェックにおいては、その専門性を高めるために本部で統一的な研修を充実させ、レセプト全体の1割程度を職員のチェックで完結させることなどにより効率化を目指す。

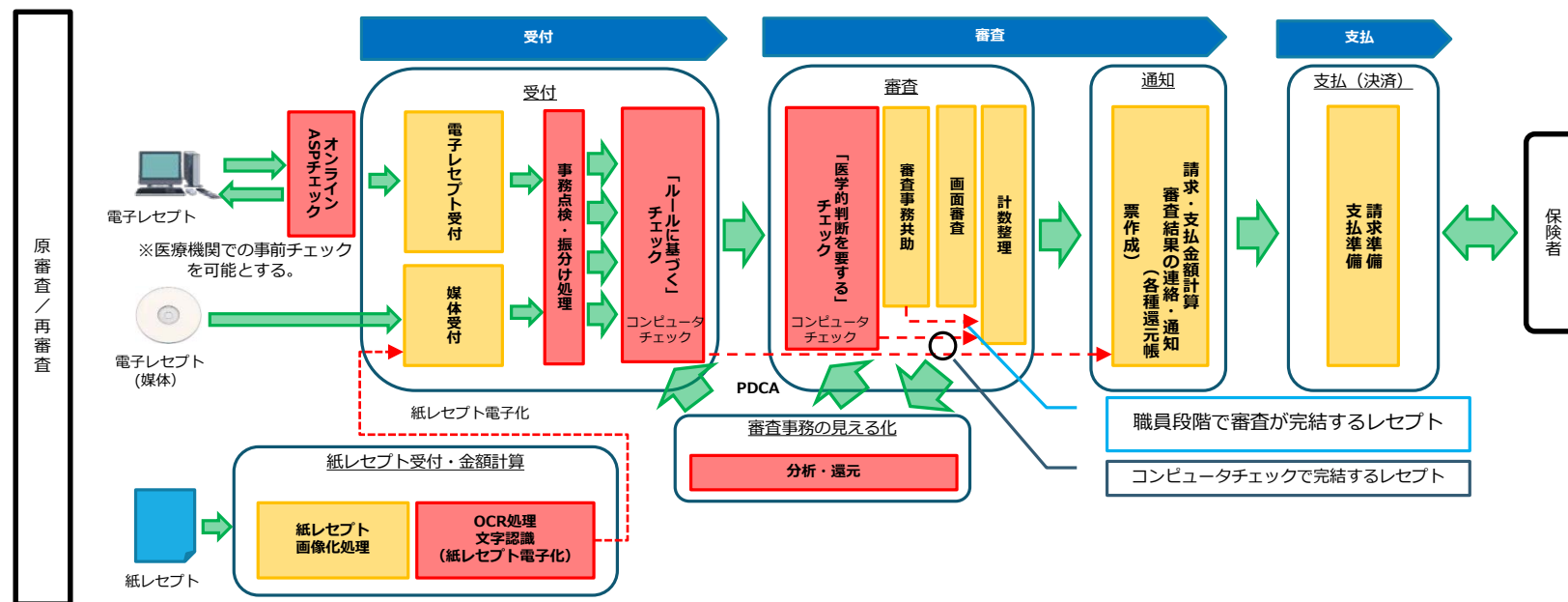
3. 新システム構築に向けた検討状況

- 支払基金本部にPTを編成し、昨年2月から内閣官房IT総合戦略室と週次ペースで支払基金の業務について議論を行い、目視確認からコンピュータで完結するためのコンピュータチェックシステムについて検討。
また、昨年10月には厚生労働省（保険局）、支払基金、国保中央会、政府CIO（IT総合戦略室）による協議の場において、仕様書の作成等について検討。
- コンピュータチェックを目視確認で解除している高額注意チェックの廃止、支部によって違う支部点検条件の整理や本部チェックへの移行を検討している。
- レセプトの振り分け（レセプト審査の4段階化）を目的としたレセプトの類型整理やコメント等の自然言語のチェックを実現するため、AIを含めたICT等を利用したコンピュータチェックの調査研究を実施している。
- 現場(支部)において、基金の業務効率化を大きく妨げる紙レセプトの業務について紙レセプトの業務フローを検討したうえで、紙レセプトに係る業務の効率化やその電子化の可能性等について調査研究を実施している。
- 基金においては、現行システム間の連携部分で、手作業や目視確認を必要としている業務の見直しを行い、金額計算※など手作業業務のシステム化の検討を行うとともに、業務処理のステージごとに手作業で行っている「送信」「受信」「開始」等のシステム間連携を自動化するなどを検討している。

※ 金額計算とは：複数の公費負担医療や医療費助成事業等の費用負担に係る特別な請求支払計算

4. 新システムの概念図

審査支払システム概念図（刷新後 コンセプト図）



刷新後のコンセプト

① コンピュータチェック

⇒コンピュータチェックを拡充し「ルールに基づくチェック」と「医学的判断を要するチェック」に大別して再整理すると共にルールに基づくチェックについては、ASPチェックを可能に。

⇒コンピュータチェックについては、ICTやAI技術等を活用し高度化、可能な限り目視を排除。

② 複雑に関連しあうシステム

⇒各機能をモジュール化することで業務量の変化にも柔軟に対応

⇒原審査・再審査等類似処理を一本化し、システム規模を縮小し、システム改修コストを削減。

③ 大量データを処理するために、高性能なサーバが必要

⇒振り分け機能を新設し、医学的判断を要しないレセプトは、コンピュータチェックにて完結させることで、画面審査等に必要なサーバリソースを縮小。

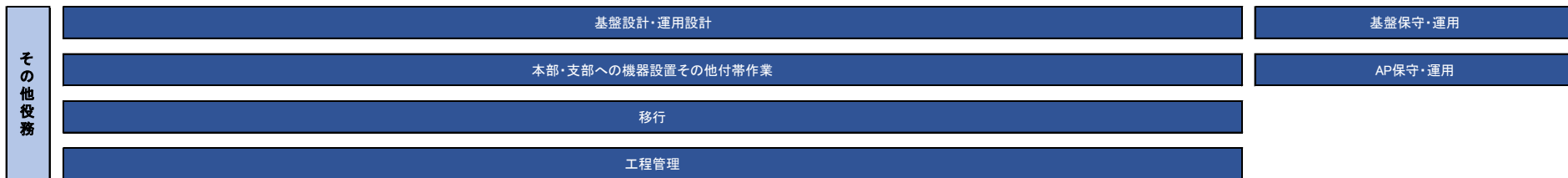
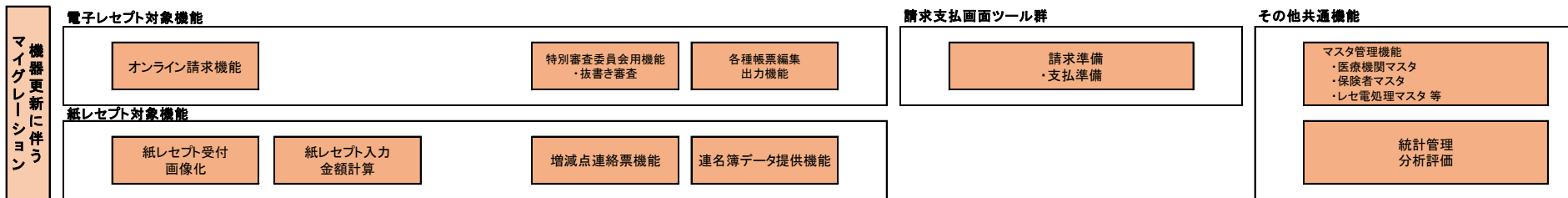
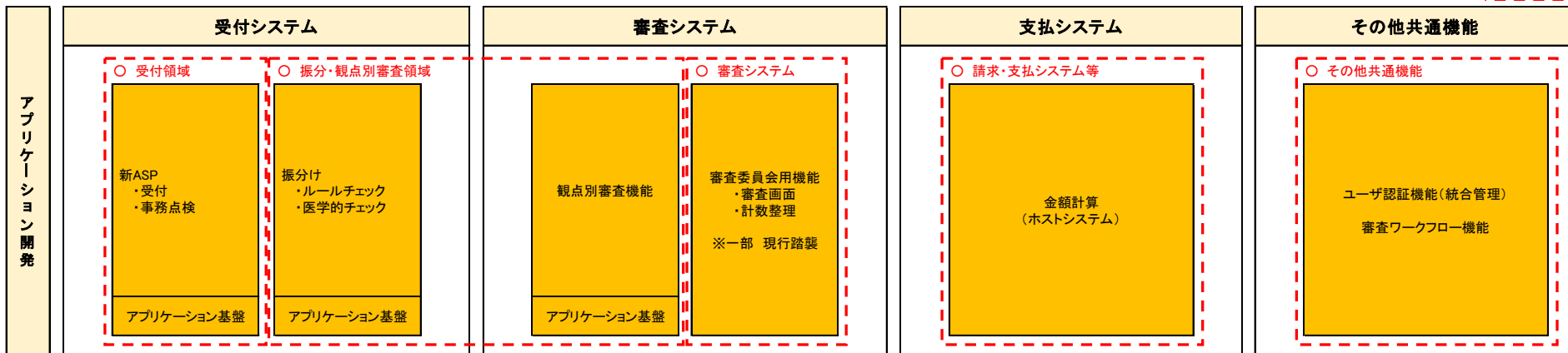
④ 支部サーバに依存したシステム構成

⇒支部サーバを廃止し、センターサーバに集約。

5. 調達・開発スケジュール

今次システム刷新においては、システムアーキテクチャをゼロベースで再構築するコンセプトであることから、システム開発は、原則、一般競争入札（総合評価落札方式）によるとともに、開発スケジュールを踏まえ分離調達とする。

調達単位



○ 開発スケジュールは別紙のとおり